

令和5年度 今治市市民が共におこすまちづくり事業

# 「次世代へ繋ぐ地域防災とドローン」 事業報告書

【実施団体名】一般社団法人 しまなみドローン協会

【事業概要】「防災」と「ドローン」についてスペシャリストによる講話のあと、災害現場において、ドローンにはどのような活用方法があるのか、みんなで考えました。座学のあとは、ドローン操縦体験。災害時の模擬体験のゲーム感覚で行いました。

【日時】令和5年9月17日(日)

午前の部 9時～12時まで 午後の部 13時30分～16時30分まで

【場所】朝倉緑のふるさと公園運動場 B&G 海洋センター 第1体育館



## 【広報先】

《チラシ配布》

市内小中学校 各20部ずつ  
今治工業・今治東中等教育学校  
市内公民館 各10部ずつ  
図書館・B&G 海洋センター  
ラヂオバリバリ など

《SNS》

ホームページ、Facebook  
Instagram、LINE  
今治市LINE

《フリーペーパー》

is、マイタウン、ここまち

## 【講師】



無人航空機講話  
JMA 日本マルチコプター協会  
副理事長 上高 寛之 氏



防災講話  
今治市 防災危機管理課  
危機管理室 参事補 玉井 英次 氏

## 【午前・受付】



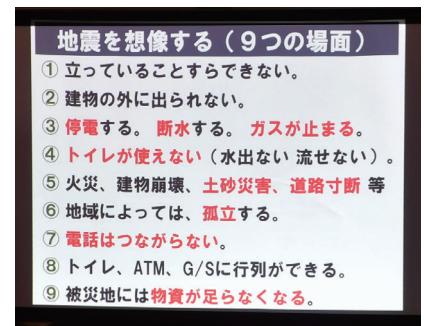
当日の受付の様子。受付では、資料と合わせて防災グッズも配布しました。



会場全体の様子。ワークショップスペースと、体験ブースに分けました。  
左がワークショップスペース。右が体験ブースと会場全体。

## 【午前・ワークショップの部】

午前の部は、14名の参加者がいました。上高氏のドローンによる講話のあと、玉井氏による防災についての講話。上高氏によるドローンの操縦実演があり狭い中を潜ったり、早い速度で飛び回るドローンに、参加者の皆さん大興奮で会場は大盛り上がりでした。



玉井氏が提示してくれた災害が想像される場面から、みんなでドローンの利活用を考えました。

## 【午前・体験の部】

いよいよお待ちかねのドローン操縦体験会。触ったことのない人がほとんどなので、スタッフによる丁寧な指導を行いました。3つのブースに、それぞれインストラクターを配置し、事故のないように徹底いたしました。



## 【午前・体験の部】



ドローン体験会では、まずは手始めにスクエア飛行練習をするAコース、遠く離れた被災地でどんな災害が起こっているのか状況把握をするBコース、被災地へドローンで支援物資を届けるCコースの、3つのコースに分け、体験してもらいました。初めて手にするドローンに、参加者はドキドキしながらも、老若男女関係なく上手に操作をしていました。講師も一緒にになってイベントを盛り上げてくれました。実際にドローンを操縦して興味を持った参加者からは、続々と質問や意見が出されました。

## 【午後・受付】

午後の部は、23名の参加者が来てくださいました。午前が家族連れが多かったのに対し午後は地元の小学生や、島の高校生がお友達と一緒にたくさん参加してくれました。



## 【午後・ワークショップの部】



午後のワークショップの部も、午前と同じ内容で実施。積極的に意見を出してもらえるようにどんどんマイクを向け発言してもらいました。上高氏によるドローン操縦の実演は、午前に引き続き好評でした。玉井氏のご準備してくださった実際の災害の様子や、ドローン協会が撮影をした平成30年の豪雨災害時の映像など、みんな真剣に見入っていました。

## 【午後・体験の部】



午後の体験の部も大変盛り上がりました。小学生や高校生の若い世代はもちろん、付き添いで来ていた大人の方々も、操縦の楽しさに、はまっていました。イベントが進むにつれ、みんなの交流も深まり、イベント終了時には、体育館の掃除や、椅子や机の運搬など、みんなが手伝ってくれました。「また次の開催時には、イベントに参加したいです。今度もまた会いましょう！」と言いながらのお別れとなりました。次回開催も是非参加していただきたいです。

## 【集合写真】

最後にみんなで、集合写真を撮りました。ドローンによる上方向からの撮影です。



## 【新聞掲載】

令和5年9月22日の愛媛新聞の朝刊に掲載されました。

後援いただいた愛媛新聞社様が、当日の午前中に取材に来てくださいました。

ドローン 災害時に 今治で講座 活用策を 考えた講座

災害時のドローン活用などを

ぎやかに歩き、見  
水不足苦しむ農民 生活人も  
ため要時間（6  
週半作の衣装姿で  
行列入った。  
平日の餘の余裕で  
多くの写真好家に  
に水の感謝語  
要職（あきょく）を  
運営（うんえい）するから、約2  
年の道のをつづ  
振り返りながら、  
の道のをつづ  
と練り歩く。  
（四国新聞）

「  
防災危機理論の井  
研修も体験、送信機で演  
習や洪水警報、機械操作  
などの訓練を行なう。被  
災地でドローン活用の実際  
を学ぶ。被災地で、赤十字社  
のボランティアが活動する  
施設で、物資搬送や救助作業  
を実施している。呼び  
作を発表。同様に、毎年当市の第1回講  
座（「頑勉会」）が開催され、約2  
週間で終了する。  
（四国新聞）

災害時のドローン活用について  
考えた後、機体の操縦体験をする  
参加者（左）

災害時のドローン活用について  
考えた後、機体の操縦体験をする  
参加者（右）

（紙面編集）本橋謙太

訂正

前 松山市写真展の  
・ナビゲーション活性化と  
あるのは正確ではない  
（アーバン・リカ・ミネ砂漠活  
（武田泰和）

### 【アンケート】

イベント終了後、参加者の皆さんに、アンケートのご協力をお願いしました。  
一部抜粋いたします。

ドローンと防災という観点で学びが多かったです。  
日程が中学校の運動会と同じ日だったので、  
そのあたりも考慮されたら参加できた方多かったですかもしれません。

ドローンの専門家さんと防災の専門家さんが、端的にわかりやすく、  
面白く説明してくださり楽しかったです！  
お二人のキャラクターも素敵でした！

充実した時間をありがとうございました。  
体験後、知人などにイベントの話をしました。  
ドローンにも防災にも興味を持つてくれました。

スタッフさんも親切で、ドローン体験もゆっくり時間があり、  
フリートークでいろいろお話しが出来たのが良かったです！  
主人は中古で11万のファントム買いました。笑。  
農作散布も視野に入れている様なので、  
今後機会がありましたら、いろいろと教えてください。

